

～寒露と霜降～ 秋の深まり

10月の二十四節気は上旬の寒露（かんろ）と下旬の霜降（そうこう）です。
冷たい露が草花に付き、霜が降り始める季節です。

よく晴れた風が弱く、放射冷却が顕著な明け方に、霜は空気中の水蒸気が昇華して直接氷になりますが、霜柱は地中の水分が凍ってできます。

都市の気温が周囲よりも高くなるヒートアイランド現象が進む首都圏では、このような寒さは、まだ感じられないと思いますが、郊外では朝晩の冷え込みを感じられることでしょう。

霜に関して、気象庁は注意報を発表します。

霜注意報は区域（地方、地域）により発表する設定基準が異なり、主に、秋：10～11月頃の早霜（はやしも）、春：3～5月頃の遅霜（おそしも）または晩霜（ばんそう）ともいわれる霜害が発生する恐れがあると予想したときに発表します。特に農作物や植物への被害に注意が必要です。

また、今年の6月から気象庁は2週間気温予報の提供を開始しました。最近1週間の気温の経過、週間天気予報で発表された気温予報「2週間気温予報」を一括で表示し、2週間先にかけての最高・最低気温の推移が一目で把握できるようになります。これにより、霜は5℃以下になった明け方にできやすくなりますので、最低気温に関する事前の備えの目安になります。

（次回号は～立冬と小雪～）

